

幸せとは何？（フィリピンから考えよう）

氏名：中西龍也

学校名：福島県石川郡平田村立小平小学校

担当教科：全教科

実践教科：道徳

時間数：5時間

対象学年：5・6年

人数：5年21名 6年13名

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標（評価の観点を意識して設定）：

他の国を知ることで日本や自分自身の良さに気づき、これからの生き方を考えることができる

【2】 単元の評価 規準例	(ア) 関心・意欲・態度	外国に対する興味をもち、進んで話し合いをしようとする。
	(イ) 思考・判断・表現	日本や自分の良いところを、友達と自分の考えを比較しながら考えることができる。
	(ウ) 技能	国際親善のあり方について、自分の考えを友達に伝えたり文章に書いたりすることができる。
	(エ) 知識・理解	外国の文化や歴史、また、それぞれの国の課題をとらえ、それを解決する方法を考えることができる。
【3】 単元設定の 理由	<p>(1) 児童について</p> <p>5・6年生の児童の多くは、社会科や外国語活動の授業、テレビ番組などで「外国」に多く触れており、言葉や食事、服装など外国のことについて知っている。世界に向けての視野は広がっていると感じるが、世界と自分自身とのつながりや関わりを実感している児童はほとんどいないと考えられる。</p> <p>さらに、今まで社会や総合の学習で外国と日本の関わりを学習してきたが、「自分に関係があることだ。」と感じながら学習した児童もほとんどおらず、自分の住んでいる地域から世界に視野を広げようと教育活動全体を通して指導している段階である。</p> <p>この単元では、フィリピンの街や人の様子から自分自身を振り返り、国際親善の為により良く貢献しようとする態度を育てるのを目的としている。普段の生活では、友達と勉強を教え合ったり、友達が困っているときにはそっと手を差し伸べてあげたりすることができている。また、特別支援学級の児童が1名在籍しているが、その子のペースに合わせながら「一緒にやろう。」と優しく声をかける児童も多い。その優しい心をもちながらも、自分の目標に向かって全力で取り組む「強い心」も育てていきたい。</p> <p>普段の道徳の授業では自分の考えをもつことが苦手な児童が多い。本主題では、話し合い活動を通して自分自身の意見をもち、友達の考えと比較することができるよう支援しながら授業を進めていく。</p>	

(2) ねらいとする価値について

今年度の夏休み、教師海外研修の一員としてフィリピンを訪問した。その時に感じたことや考えたこと、体験したことなどを担任が詳しく伝え、さらに写真や実物を見せながら児童に課題を考えさせる。そして、児童一人ひとりがこれからいかに生きるかを考え実践する態度を育てるのが本単元のねらいである。まずは、授業を通して外国の人々や文化に関心をもち、さらに日本人としての自覚を持たせたい。

貧困に苦しむフィリピンの子どもたちの生活の様子を紹介する授業では、「幸せとは何か。」と一緒に話し合い、自分自身と世界の人々の幸せのためにどう生きるべきか考えさせたい。パヤタス、スモーキーマウンテンの人々の生活の様子は、それを考える効果的な教材になると思う。また、フィリピンの良さを学ぶことによって、普段では気づかない「日本の良さ」に改めて感じることができるのではないだろうか。そこからさらに、自分の良さに気づかせ、自信をもって生活する態度を育てたい。

(3) 主題の指導について

本単元では写真等を多く使用し、フィリピン、そして外国に対する興味、関心を高めていきたい。また、授業毎にワークシートを利用し、それを参考にしながら学習状況や成長の様子を記録することにより、指導に生かしていく。

普段の生活において、「日本の良さ」を感じながら生活している児童はいないと考える。本時では、フィリピンという国の文化を知ることによって日本の良さを見つけ、さらに何気ないところにも日本の良さはあるということに気づくことができるようにする。そのために、いろいろなテーマから「日本の良さ」を見つけられるよう、担任がフィリピンについて資料や話をしたりすることで多くの「視点」を与えていく。

その際、担任の主観を極力入れないように事実だけを示し、児童一人ひとりが持った感想を大切に、授業を展開していきたい。

【4】展開計画（全5時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	フィリピンを知ろう！	○フィリピンという国の特徴を知る。 フィリピンクイズを解く。 （場所、人口、言語、宗教、硬貨や紙幣、食べ物、建物など） ○日本と同じ所、違うところを探す。 （自動車のメーカー、自動販売機、ゴミ箱、コンビニエンスストアなど） ○フィリピンに関してどんなことを学びたいか考え発表する。	・写真 ・動画 ・フィリピン紙幣などの具体物 ・ワークシート
2 本時	日本の良さを伝えよう	フィリピンの人々や文化について知り、それらを基に日本の良さを考えることができる。	・写真 ・付箋 ・ワークシート

3	フィリピンの子どもたち	<p>フィリピンの子どもたちの長所を話し合うことで、自分自身の長所を知る。</p> <p>○訪問したドロップインセンターの子どもたちの写真や動画を見て、どのような背景をもつ子どもたちかを考える。</p> <p>○その他のフィリピンの子どもたちの写真を見て、「いいね！」と思うところを発表する。(笑顔である。真剣に勉強をしている等。)</p> <p>○どんな子にも、「いいところ」があることに気づく。</p> <p>○自分自身の「いいところ」を考える。</p> <p>○友だちから「いいね！」をもらう。</p> <p>○今日の感想を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・写真 ・動画 ・ワークシート
4	「豊かさ」とは？	<p>「豊かさ」を考えることから自分の身近にいる家族の愛を感じることができる。</p> <p>○パヤタスのスモーキーマウンテンに生きる人々の様子を知る。</p> <p>○スモーキーマウンテンで収入を得ることにに関して、メリット・デメリットを考える。</p> <p>○スモーキーマウンテン近くで暮らす女性のインタビューを観て、「なぜここで暮らすのか、何のために暮らしているのか。」を考える。</p> <p>○ここで生活する人々は「豊か」なのかを考える。</p> <p>○「豊かさ」とは何か、自分の考えを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・写真 ・動画 ・ワークシート
5	本当の「幸せ」とは？	<p>自分のこれからの生き方を考える。</p> <p>○「幸せ」とは何かを考える。</p> <p>○自分自身だけの「幸せ」だけでなく、周りの人の「幸せ」を考えなければならないことに気づく。</p> <p>○いろいろな国の人々が幸せになるために自分ができることを考え、発表する。</p>	<p>写真 ワークシート</p>

【5】本時の展開

過程 時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (3分)	<p>1 前時の学習を振り返る。</p> <p>(1) フィリピンに関するクイズを解く。</p>	<p>○クイズを出すことで児童の本時に対する意欲を高める。</p>	<p>・写真</p>
展開 (15分)	<p>2 日本の良いところを話し合う。</p> <p>(1) グループごとに、事前に用意した日本の良いところが書かれた付箋を、一人ひとり紹介しながらグルーピングする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食べ物がおいしい ・ 争いが少ない、平和 ・ 伝統文化が多い <p>(2) グループごとに紹介する。</p>	<p>○ 少人数で話し合いができるようにグループを作り、一人ひとりが発言できるようにする。</p>	<p>・ 前時のワークシート</p> <p>・ 模造紙</p> <p>・ 水性ペン</p> <p>・ 付箋</p>
(15分)	<p>3 フィリピンの良いところを見つける。</p> <p>(1) 担任が提示した写真などを見ながら、フィリピンや他の国の良いところを全体で話し合う。</p>	<p>○ 文化には優劣が無く、また、フィリピンと日本どちらが良いということは無いということを伝え、2つの国の「良さ」に目を向けるようにする。</p> <p>○ フィリピン以外にも、ガーナとニカラグアで活動している青年海外協力隊員から国の様子を紹介してもらい、児童が良さについて多角的に考えられるようにする。</p> <p>○ 食べ物や生活様式など、児童が興味を持ちそうな題材で写真を提示する。</p> <p>○ 担任が説明を付け加えることで、児童が外国の良さを実感しやすいようにする。</p>	<p>・ 写真</p> <p>・ ワークシート</p>

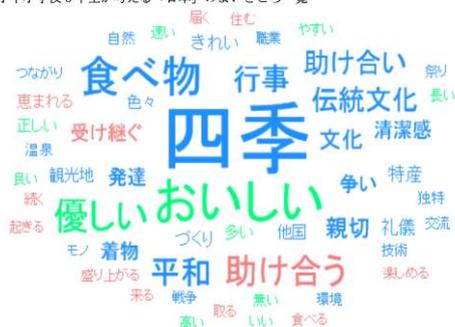
	4 今日の授業を振り返り、日本の良いところをもう一度考える。	○ 授業前までと考えが変わらなくても良いことを伝える。	
まとめ (10分)	5 未来に残したい日本の良いところを5・7・5でカルタカードに書く。 6 本時の感想を発表する。	○ 多少の字余り、字足らずは気にしないよう児童に伝える。	・カルタカード

【授業実践の様子】



導入のフィリピンクイズ

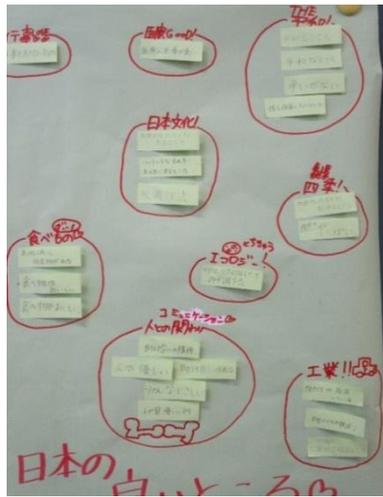
小平小学校6年生が考える「日本」のよいところ一覧



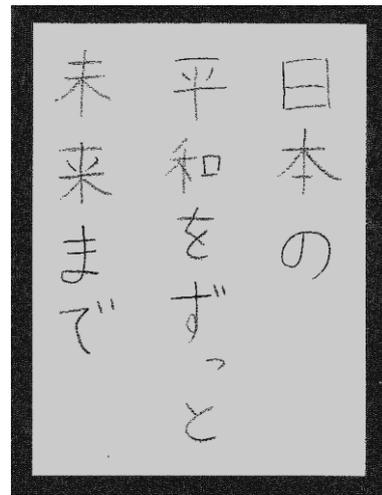
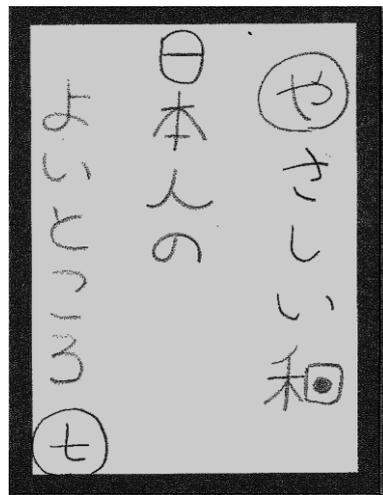
小平小6年生が考えるよいところ一覧



グループで付箋をまとめる



グルーピングされた付箋



生徒が作った「日本のよいいところ」カルタ

【6】本時の振り返り

本時では、「日本の良さを知る」ということを目標に行った。フィリピンに関するクイズでは、空港の写真を提示し、「ここはどこでしょう」というものを行った。児童はすぐわかったが、その後「自分がどこかにいます。」と話したことで、席を立ちテレビ画面に近寄って探していた。公開授業という緊張が少しは解けたのではないかと感じた。



ニカラグア派遣の阿部翔太隊員



ガーナ派遣の上野真理恵隊員

展開の場面では、事前に宿題として「日本の良さ」を一人ひとりまとめていたので、時間に関してスムーズに進めることができた。グループで模造紙にまとめるグルーピングの時間は、付箋に書いてきた内容に共通するものがたくさんあったので、「私と同じだね。」等、各グループ共に会話が弾み、充実した活動となった。



机を直すガーナの小学生

「フィリピン＝外国」にならないように、ガーナ、ニカラグアの写真を提示しながらその良さを紹介した場面では、児童が食い入るような目で見ていた。他国の文化や生活様式等を知ること、「日本にも同じようなものがある」と、比較、検討することができていたので、本時のねらいはほぼ達成できたのではないかと思います。

そして最後に、日本の良さを5・7・5のカルタにまとめた。授業前に考えてきたものとあまり変わらなかった子が多かったが、日本の良さを改めて感じていた子がほとんどだった。日本の良さをもう少し話し合う時間があれば、さらに考えることができたのではないかと思いますというのが反省点である。

【7】 単元を通した児童生徒の反応/変化

フィリピンに関する一般論ではなく、「担任が実際にフィリピンに行って」感じたこと等を伝えているので、児童は単元を通して興味・関心をもって授業に取り組んでいた。自分自身の良さに気づく学習では、「良さを探ることが難しかった。」という感想が多く聞かれた。また、「欠点を見つけるのは得意だけれど。」という自虐気味の感想を書く子もいた。普段、子どもの自己肯定感を高める活動がいかに大切かを改めて感じた。

また、児童からは「普段『日本の良さ』を感じたり考えたりすることは少ないので、改めて日本は良い国だなと思った。」「これからも日本のいいところを知っていきたい。」「友だちの考えと同じものがあつたので楽しかった。」という感想があつた。

児童は、良さに気づく為の視点はいろいろあるということを実感したようである。

<p>今日の授業の感想</p> <p>日本のいいところを改めて考えることができました。みんなで出し合った意見が未来に残るといいです</p> <p>楽しかった!</p>	<p>今日の授業の感想</p> <p>今日の授業はとっても楽しかったです。フィリピンの方がみなさんやさしいなと思いました。この授業でフィリピンに行きたいなと思いました。日本とフィリピンの良い所が分かりました。</p>
<p>今日の授業の感想</p> <p>・すごく楽しかった!!</p> <p>・日本もいいところがあるけれど、フィリピンもいっぱいいいところがあったから、少しくやしいと思ったり、すごいと思った。</p>	<p>今日の授業の感想</p> <p>今日の授業外国の良いところ、皆の意見よくわかりました。とても分かりやすく、この国にも笑顔が満ちあふれていること、どこにも目をつけていること、わかりました。</p> <p>ありがとうございました!</p> <p>次の授業も楽しみに期待しています!!</p>
<p>今日の授業の感想</p> <p>日本のいいところをたくさんみつけられて、日本は平和だと思った。同時に外国のいいところも知れた。</p> <p>楽しかった!</p>	<p>今日の授業の感想</p> <p>今日は、フィリピンのことその他の国々のことかたてさんで勉強できてうれしかったです。☆☆☆☆ フィリピンの人たちにも日本のよいところを知ってほしいと思いました。</p>

子どもたちの感想

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲があれば記載下さい】

単元の学習が進むにつれて、他者の意見を素直に聞き、自分の考えを深めることができるようになったと感じる。特に付箋を使ったKJ法での話し合いでは、友達の考えを尊重しながら進めていくことができた。

学習後では、友達や他者に対して思いやりが出てきたように感じる。クラスメイトに対して、失敗をフォローしたり、休み時間遊びに誘ったりする姿が見られ、自分中心ではなく、友達に合わせて行動できるようになってきた。これは、日本や自分自身のよいところ、長所を見つける活動が影響していると思われる。友だちの長所に目が行くことで、ゆとりをもって生活できるクラスの雰囲気になってきた。

また、フィリピンの児童が目を輝かせて勉強をしている写真を見て、「自分も頑張ろう」という気持ちをもった児童が多かった。クラスの児童は、外国の子どもたちが学習している場面を見るのはほとんど初めてだった。自分たちと同じような学習をしていることを知り、学習に対して意欲的になってきたと感じる。

【途上国・異文化への意識の変容について記載下さい】

(授業前)

児童の途上国に対するイメージは「貧しい」というものがほとんどだった。また、「貧しい国は。」と問いかけると、具体的な国名はわからないが、「アフリカ」と答える児童が多く、服装からの見た目で「貧しそう」というイメージを持っているようだった。なお、東南アジアの国名を書いている児童は全くなかった。

また、日本より、そして私たちよりも「劣っている」点が多いという風に感じていた児童がほとんどだった。フィリピンに関しては、「バナナ」ということしかイメージが湧かない児童が多かった。

(授業後)

日本とフィリピン、他の国の「良さ」を見つける活動を通して、途上国の人々も我々と変わらないということを感じていた。

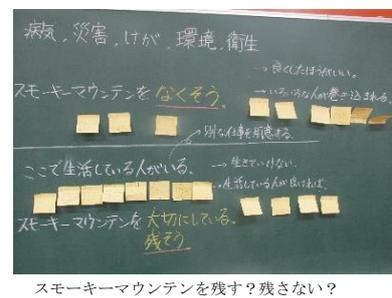
また、海外のニュースに関心を抱くようになった。地図帳でニュースに出てきた国や都市を調べ、「ここでこんな出来事が起きたんだね。」と理解を深める子が増えた。さらに、異文化を実際自分の目で見てみたい、もしくは体験してみたいという児童が出てきた。外国が単にテレビの世界、遠い世界から、児童自身の身近なものになったようである。

【8】自己評価

1. 苦勞した点	<p>児童の興味・関心をどこまで高められるかという点と、自分の話したいことや伝えたいことが、児童の「学びたい」という欲求と一致しているかという点。海外研修に行った後は、伝えたいことや授業で扱いたいことが山ほど出てくる。それを取捨選択する作業が一番難しかった。</p> <p>授業を進めるにあたり、フィリピンなどの情報を一方的に与えるのではなく、考えさせたり意見を求めたりすることを意識した。しかし、そのバランスを考えながら授業を構成していくことも、予想以上に苦勞した。</p> <p>写真に関しては、他の参加者が撮影したものを含め数百枚あったので、そこから訪問場所などのカテゴリーに分けることが大変だった。そして、授業で使う写真を選んでいく作業は、かなりの時間を使った。</p> <p>ガーナ、ニカラグアで活動する青年海外協力隊の資料を作成する際は、実際に電話でやり取りをしたが、時差の関係で、朝4時頃から連絡してメモを取り、計画的に教材づ</p>
----------	--

	<p>くりを進めることも大変だった。しかし、会話を通して、宗教に関する事など、自分自身に新たな気づきがあったので、それは授業の中で示すことができた。</p> <p>本時の授業では、事前に児童から「日本の良いところ」を集め、そこから授業を展開しようと考えたが、集めた意見をどのように提示するかで悩んだ。そんな時、同僚が、「テキストマイニング」というツールを教えてくれたので、それを授業で利用した。参観の先生から、「面白いツールだね。」という声を頂いた。</p>
2. 改善点	<p>今回は宿題で日本の良い所を考えてもらったが、45分の中で行ったほうが児童の考え、変容がより明確になるのではないかと思った。しかし、そうすると時間が足りなくなる可能性もある為、時間配分を考えなくてはならないと思う。</p> <p>導入の段階では、国の特徴を知る為にフィリピンに関するクイズを行い、児童の興味関心を高めた。しかし、例えば本時のテーマを「自分の良いところ」にする場合、導入と終末の段階で、「自分の良いところ」を考え、その変容をみるという授業を行うこともできる。</p> <p>また、日本の良さをグルーピングした後に、グループ間の比較検討、また「伝統」や「平和」などの抽象的な言葉に関して、具体的に話し合う時間をきちんと確保した方が良かった。</p> <p>ガーナ、ニカラグアの写真を提示する場では、可能ならばさらに色々な国の様子を示すと、児童の思考が一度「地球規模」まで広がり、日本の良さをより多角的に見つけることができるのではないだろうか。</p> <p>本時では、日本の良さに関する「写真」を提示しなかった。例えば「四季」というキーワードで写真を提示した時に、子どものイメージと合わない可能性があると考えたからだ。しかし、外国の良さを写真で提示して、日本のそれはしなかったため、外国の良さだけがクローズアップされてしまった。児童のイメージと合わなくてもいいから、日本についても写真を提示すれば良かった。</p>
3. 成果が出た点	<p>フィリピンだけではなく、青年海外協力隊の方に協力してもらい、他の外国のことも取り入れることで、児童がフィリピン＝外国という思考にならなかったというのが1番の成果である。</p> <p>また、宿題で「日本の良さ」を見つけてもらう際に、家族と一緒に考えることを促した。その結果、家族も今回の授業に興味をもってくれたようだ。授業後に、親から「どうだったか」と質問された児童が多く見られた。家族を巻き込んだ授業になったのはたまたまではあるが、これを意識してやろうと思うと、もっと色々な手段があるのかもしれない。</p> <p>最後に、児童の変容である。授業後には、前述した通り、学習に対する意欲が上がったと感じる。また、普段のニュースで海外に関するものに興味をもつようになった。この色々な情報を得ようとする姿勢は、これからの生活で大きなプラスになると考えられる。</p>

<p>4. 備考(授業者による自由記述)</p>	<p>どのような「日本の良さ」に気づかせたいか、また児童の実態によって授業の展開が大きく変わっていくと思う。今回、児童は「平和」「笑顔」「オリンピックでの活躍」等、多様な「日本の良さ」を出してくれた。しかし、クラスによってはあまり考えが出ないという可能性もあり、それに対処するために、あらかじめ写真を多く用意しておく等準備が必要なのではないかと思う。</p> <p>パワーポイントを使う際は、たくさんの写真などの資料を見せられる一方、児童の記憶に残りにくいという欠点もあるので、後で振り返らせたい写真などは、印刷し黒板に貼っておくほうが良いと思う。</p> <p>最後に、単元を通して自分が意識したことは、担任の「主観」を極力入れないということである。パヤタスのゴミ山も、児童がマイナスイメージをもたないように、あえて「スモークーマウンテン」という表現を用いた(正確にはゴミ山を含めたスラム街の意のようだが)。</p> <p>そしてスモークーマウンテンを残すか残さないかを考えさせる学習では、「残す」「残さない」という意見が見事半々に分かれた。開発教育には、このような配慮が必要なのではないかと感じた。決して「上から目線」にならないように。謙虚な気持ちをもって、これからも開発教育・国際理解教育に取り組んでいきたい。</p>
--------------------------	--



添付資料 :

ワークシート、フィリピンの写真・動画、青年海外協力隊からの写真等、マス目模造紙、ペン、付箋紙、カルタカード。

参考資料 :

テキストマイニング <https://textmining.userlocal.jp/>